

10. 献血に関する資料評価

【経験者編】



(3) 献血回数の増加意向喚起 (Q23-3)

Q23. 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

3) アンケートへの記載及び資料を読んで、献血に行く回数を増やそうと思いましたか。

【基数:対象者全員】		(N)	(%)				はい (計)	いいえ (計)
			はい	どちらかという はい	どちらかという いいえ	いいえ		
全体	20年	(5000)	28.5	54.4	13.0	4.1	83.0	17.0
	17年	(5000)	19.7	62.8	14.3	3.2	82.5	17.5
高校生	20年	(141)	35.4	44.8	13.8	6.1	80.1	19.9
	17年	(87)	20.7	60.9	14.9	3.4	81.6	18.4
大学生・専門学校生	20年	(645)	29.4	54.0	12.3	4.3	83.4	16.6
	17年	(652)	20.9	60.0	14.1	5.1	80.8	19.2
会社員	20年	(2112)	26.9	56.0	13.4	3.8	82.9	17.1
	17年	(2099)	19.3	62.6	15.1	3.0	81.9	18.1
公務員	20年	(207)	28.5	50.2	17.4	3.9	78.7	21.3
	17年	(203)	23.6	60.6	13.8	1.9	84.2	15.8
自営業	20年	(106)	25.5	51.9	18.9	3.8	77.4	22.6
	17年	(143)	15.4	64.3	16.1	4.2	79.7	20.3
専業主婦	20年	(440)	33.7	56.5	7.8	2.0	90.2	9.8
	17年	(1067)	20.5	65.9	11.8	1.8	86.4	13.6
その他	20年	(453)	26.5	52.8	14.6	6.2	79.2	20.8
	17年	(749)	17.9	62.2	15.5	4.4	80.1	19.9
男性	20年	(2556)	24.6	54.2	16.0	5.2	78.8	21.2
	17年	(1705)	16.4	62.1	17.2	4.3	78.5	21.5
女性	20年	(2444)	32.6	54.7	9.8	2.9	87.3	12.7
	17年	(3295)	21.3	63.2	12.8	2.7	84.6	15.4
北海道	20年	(210)	35.2	51.9	7.6	5.2	87.1	12.9
	17年	(200)	23.5	55.5	16.5	4.5	79.0	21.0
東北	20年	(355)	28.2	55.2	13.8	2.8	83.4	16.6
	17年	(350)	23.4	61.1	11.7	3.7	84.6	15.4
関東甲信越	20年	(1825)	26.4	54.4	14.5	4.7	80.8	19.2
	17年	(1800)	17.2	62.1	17.1	3.7	79.2	20.8
東海北陸	20年	(780)	30.0	53.5	12.1	4.5	83.5	16.5
	17年	(750)	19.2	65.6	12.9	2.3	84.8	15.2
近畿	20年	(816)	27.5	55.9	13.5	3.2	83.3	16.7
	17年	(850)	18.5	65.2	13.4	2.9	83.6	16.4
中国・四国	20年	(431)	32.3	53.8	11.1	2.8	86.1	13.9
	17年	(450)	22.9	61.3	13.3	2.5	84.2	15.8
九州・沖縄	20年	(583)	29.8	54.7	11.3	4.1	84.6	15.4
	17年	(600)	23.5	63.0	10.5	3.0	86.5	13.5



- 最後に、『献血』についての要望や知りたいことをみると、トップは「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」で40.5%。
- 以下、「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」(38.5%)、「献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい」(37.5%)、「献血した時の処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい」(35.4%)などが僅差で続いており、突出したものはないものの要望は多岐にわたっている。
- 職業別にみると、他層に比べて専業主婦の要望が総じて多岐にわたる。特に、「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」が他層に比べて高い。
一方、高校生、公務員はともに「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」がやや低い。しかし、「献血で昼休み、夜間などの受付時間を延長してほしい」は両者で差があり、公務員で最も高く、高校生で最も低い。
なお、高校生は「進学や就職時に献血の経験を考慮してほしい」が他層よりも高い。
- 性別では、総じて男性より女性の要望が目立つ。特に「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」でその差が大きい。
- 地域別では、多少のスコア差はあるものの、全体的には大きな違いはみられない。

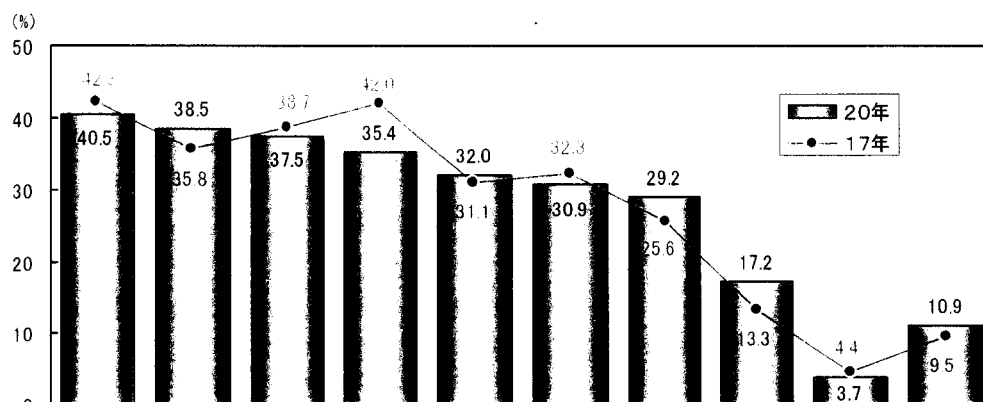
- 17年度調査と比較すると、全体的に大きな動きはみられない。その中で「献血した時の処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい」がややスコアを下げている。
- 職業別にみると、上位項目の中では「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」は高校生、「職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい」は専業主婦、自営業でやや増加。
また、「献血された血液がどのように使われるのか知りたい」は専業主婦、高校生で、「学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい」は専業主婦と会社員でやや増えている。
なお、自営業、公務員は「特にない」が前回よりも増えた。
- 地域別では、上位項目において北海道の上昇度が目立つ。

11. 献血についての要望・知りたいこと (Q11)

【経験者編】



Q11. 献血について何か要望又は知りたいことがありますか。(いくつでも)



【基数:対象者全員】

		(N)	(%)									
			40.5	38.5	37.5	35.4	32.0	30.9	29.2	17.2	3.7	10.9
全体	20年	(3000)	40.5	38.5	37.5	35.4	32.0	30.9	29.2	17.2	3.7	10.9
	17年	(5000)	42.3	35.8	38.7	42.0	31.1	32.3	25.6	13.3	4.4	9.5
職業別	高校生	(181)	36.4	33.1	41.4	35.9	23.2	14.4	23.2	24.9	2.2	16.0
	17年	(87)	28.7	46.0	42.5	44.8	23.0	26.4	20.7	23.0	1.1	11.5
	大学生・ 専門学校生	(143)	38.3	39.2	36.0	36.6	28.4	31.7	26.6	22.1	2.9	12.0
	17年	(652)	41.0	41.3	35.9	44.5	28.8	35.1	26.2	20.9	3.4	7.8
	会社員	(2152)	40.9	39.1	36.8	32.9	33.5	32.5	28.1	13.2	3.9	9.8
	17年	(2099)	43.0	38.2	37.3	40.1	29.7	35.0	22.3	11.6	3.4	9.4
	公務員	(207)	34.3	41.5	35.3	34.8	24.6	36.2	24.2	17.9	4.3	12.1
	17年	(203)	36.0	41.4	36.9	38.4	22.7	42.9	21.7	10.8	5.9	5.4
自営業	(106)	40.6	30.2	41.5	34.0	33.0	27.4	29.2	19.8	6.6	17.0	
17年	(143)	46.2	21.7	44.1	37.1	37.8	28.0	27.3	10.5	7.0	8.4	
専業主婦	(248)	45.8	38.2	44.2	40.2	39.5	27.9	42.0	14.5	3.1	7.4	
17年	(1067)	42.5	31.0	42.6	45.6	34.2	24.8	30.6	12.4	5.2	10.0	
その他	(243)	45.5	36.4	37.5	38.9	34.4	28.3	34.7	19.4	4.9	12.6	
17年	(749)	43.8	31.0	38.2	41.8	34.4	31.6	28.4	12.8	6.3	11.5	
性別	男性	(206)	40.4	33.8	36.9	32.5	29.7	27.7	25.4	17.2	3.5	13.4
	17年	(1705)	43.2	32.8	36.9	36.7	28.9	29.9	22.8	12.7	3.9	11.0
女性	(244)	40.6	43.4	38.1	38.4	34.5	34.2	33.1	17.2	3.8	8.3	
17年	(3295)	41.9	37.3	39.6	44.8	32.2	33.6	27.1	13.6	4.7	8.7	
地域別	北海道	(206)	38.1	39.5	41.9	26.2	31.9	32.4	25.2	21.9	3.3	12.4
	17年	(200)	32.0	34.5	35.5	36.5	27.5	28.0	22.5	8.5	4.5	14.5
	東北	(336)	42.8	40.3	39.7	40.0	26.5	30.7	29.3	16.6	3.1	9.3
	17年	(350)	44.6	37.1	40.6	38.9	29.4	29.7	26.3	14.6	4.0	9.1
	関東甲信越	(1226)	40.7	34.5	32.1	34.5	33.2	31.1	28.5	17.6	4.1	13.2
	17年	(1800)	42.2	34.9	32.9	43.4	32.2	32.0	24.6	13.8	5.5	10.6
	東海北陸	(780)	40.3	41.2	40.8	37.4	31.3	31.5	29.9	15.5	3.1	9.7
	17年	(750)	42.5	36.1	43.6	40.0	29.2	34.0	24.3	13.7	3.9	7.9
近畿	(316)	41.4	39.1	39.8	36.2	31.7	28.4	30.1	16.5	3.6	9.9	
17年	(850)	42.8	34.8	42.0	43.4	30.4	32.8	25.4	12.7	3.9	9.9	
中国・四国	(231)	35.5	40.4	40.8	37.1	32.9	28.5	28.3	19.7	3.0	8.8	
17年	(450)	37.8	34.4	41.8	38.0	28.9	31.8	26.9	13.8	2.0	10.9	
九州・沖縄	(206)	42.2	43.9	41.3	33.4	32.8	34.0	30.9	15.8	4.3	8.9	
17年	(600)	47.3	40.0	42.7	45.0	34.8	33.7	30.3	12.3	4.5	5.2	

付) 調査票 / 呈示資料

<スクリーニング項目>

- SC1 現在お住まいの地域は、以下のうちどちらになりますか。
1. 北海道 2. 東北 3. 関東甲信越 4. 東海北陸 5. 近畿
6. 中国・四国 7. 九州・沖縄
- SC2 現在おいくつですか。
1. 15歳以下 ⇒ 対象外
2. 16～17歳
3. 18～19歳
4. 20～24歳
5. 25～29歳
6. 30歳以上 ⇒ 対象外
- SC3 あなたの性別を教えてください。
1. 男性 2. 女性
- SC4 現在のご職業を教えてください。
1. 高校生 2. 大学生・専門学校生 3. 会社員 4. 公務員 5. 自営業
6. 専業主婦 7. その他 ()
- SC5 あなたは学業及び職業で、医療関係に携わっていますか。
1. はい 2. いいえ
- SC6 あなたは、今までに「献血」をされたことがありますか。
1 ある ⇒ 献血経験者用調査票
2 ない ⇒ 献血未経験者用調査票

若年層献血意識調査

問1 献血について知っていますか。

1. よく知っている 2. ある程度知っている 3. まったく知らない

問2 献血の種類（※）を知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

※ ... 献血の種類には、すべての血液の成分を採血する全血献血（200mLまたは400mL）と、必要な血液の成分だけを採血する成分献血（血漿成分献血または血小板成分献血）があります。

問3 献血がどこでできるか知っていますか。（※）

1. 知っている 2. ある程度知っている 3. 知らない

※ ... 献血は、①献血ルーム ②献血バス ③血液センター ④会社や団体での出張献血です。

問4 献血について関心がありますか。

1. 非常に関心がある 2. 関心がある 3. 特に関心がない 4. 全く関心がない

問5 献血は患者さんに対する輸血だけでなく、献血を原料とした血液製剤として、さまざまな病気の治療に役立っていることを知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問6 献血へ協力してくださる若い方の数が、近年大幅に減っています（※）。知っていましたか。

1. 知っている 2. 知らない

※ ... 最近5年間で20代の献血者数は161万8千人から113万5千人（30%減）に、10代の献血者数は56万4千人から32万4千人（43%減）に減少しています。

問7 献血に関して、どのような広報媒体を見たこと（聞いたこと）がありますか（複数回答可）。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞
5. 街頭での呼びかけ 6. 献血ルーム前の看板・表示 7. チラシの配布
8. ポスターの掲示 9. 献血関係のイベント 10. 自治体の広報誌 11. 雑誌等
12. インターネット 13. 献血バス
14. その他（ ）
15. 何かで見た（聞いた）が、何の媒体か覚えていない
16. 見たこと（聞いたこと）がない

問8 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体は何だと思いますか（複数回答可）。

1. テレビ 2. FM放送 3. その他のラジオ放送 4. 新聞 5. 雑誌
6. 自治体の広報誌 7. インターネット 8. 携帯電話 9. ポスター
10. その他（ ）

問9 厚生労働省では献血推進のためのキャラクターとして「けんけつちゃん」を作成していますが、知っていますか。

1. 知っている 2. 知らない

問10 献血に関するキャンペーンを知っていますか。

（毎年7月：愛の血液助け合い運動 毎年1～2月：「はたちの献血」キャンペーン）

1. 知っている 2. 知らない

問11 平成2年から、全国の高校3年生を対象に、献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布していますが、学校で配られた記憶はありますか。

1. 保健体育の授業で使用した
2. 他の授業で使用した
3. 配布されただけ
4. 知らない

※ 参考（平成19年版 高校生副読本「HOP STEP JUMP」→

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/2e/index.html> をご覧下さい)

問12 献血でエイズ、肝炎その他の感染症に感染することはありませんが、そのことを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

問13 血液製剤（※）は未だ海外の血液に依存していることを知っていますか。

1. 知っている
2. 知らない

※...重症熱傷に用いるアルブミン製剤では、国内自給率は未だ60%台である。

問14 献血ルームのイメージを教えてください。

1. 明るい
2. ふつう
3. 暗い
4. わからない

問15 献血したことがないのはどのような理由からですか。

理由の大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 献血を申し込んだが、基準に適合せずに断られた
2. 献血している所に入りづらかったから
3. 呼び込みが強引で嫌だったから
4. 献血場所が遠いので面倒だから
5. 近くに献血する場所や機会がなかったから
6. どこで献血ができるか分からない
7. 時間がかかりそうだから
8. 忙しくて献血する時間がなかったから
9. 自分が献血しなくても誰かがやると思ったから
10. 自分の血液が役に立たないと思ったから
11. 血液が無駄にされていると聞いたから
12. 針を刺すのが痛くて嫌だから
13. なんとなく不安だから
14. 健康上出来ないと思ったから
15. 病気がうつると思ったから
16. 献血すると言ったら、友人や家族からとめられた
17. 血を採られるという感じが嫌だ
18. 恐怖心
19. 職員の態度が悪いので献血したくない
20. 献血する意志がない
21. 海外渡航歴等による献血制限で献血したくてもできない
22. 薬を服用しているので献血ができない
23. その他
24. わからない

1 番目 2 番目 3 番目

23.その他を選んだ場合の具体的な理由

問16 あなたが献血するきっかけとなり得る項目を選択してください。
きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。
なお、13、14番を選択した方は、具体例を教えてください。

1. 家族や友人などから勧められた
2. 献血しているところが入りやすい雰囲気になった
3. 近くに献血する場所ができた（献血ルーム）
4. 近くに献血する場所ができた（献血バスまたは出張献血）
5. キャンペーンやイベント等により献血が身近に感じられるようになった
6. 好きなタレントがキャンペーンに起用されていた
7. 献血の重要性が明確になった
8. 血液が無駄になってないことが分かった
9. 針が細くなった
10. 針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された（麻酔など）
11. 献血で病気がうつることはないを知った
12. 献血ルームの受付時間が長くなった
13. 献血したときの処遇品（記念品）が良くなった
14. 献血ルームのサービスが良くなった
15. 献血が自分の健康管理の役に立つようになった
16. 職員の態度が良くなった
17. 海外渡航歴等の献血制限が解除された
18. 献血が健康にほとんど害がないということが分かった
19. 献血できる場所が分かった
20. 献血は絶対しない

1 番目 2 番目 3 番目

13. 献血したときの処遇品（記念品）が良くなったを選んだ場合の具体例

14. 献血ルームのサービスが良くなったを選んだ場合の具体例

20. 献血は絶対しないを選んだ場合の理由

問17 ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

1. ある 2. ない 3. おぼえていない

問18 あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

1. いる 2. いない 3. わからない

問19 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。
下の資料をご覧ください。

問19-1 献血の必要性への理解は良くなりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

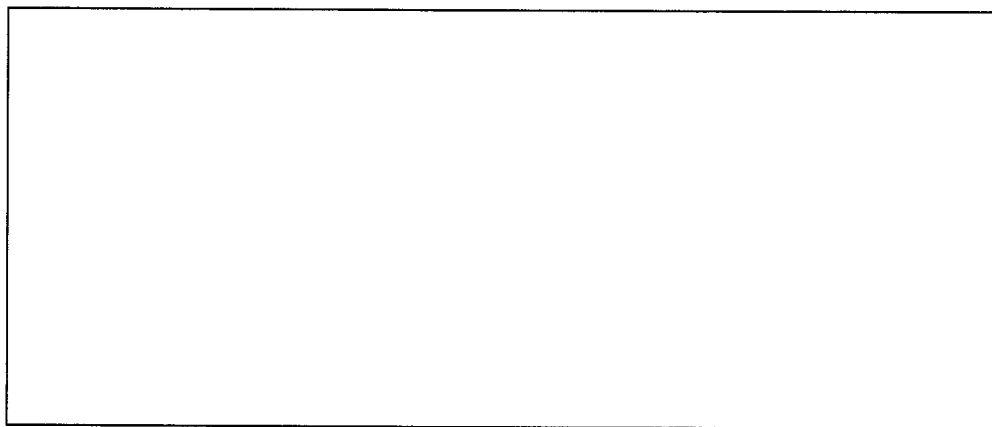
問19-2 今は献血に協力する気持ちはありますか。

1. ある 2. どちらかというとある 3. どちらかというとない 4. ない

問19-3 今後、実際に献血に行きますか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問20 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。



以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願いします。

プロフィールはこちら → <http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/ti.html>

問10 献血ルームのイメージを教えてください。

- | | | | | |
|------------------|--------|--------|-------|----------|
| —1 ルームの雰囲気 | 1. 明るい | 2. ふつう | 3. 暗い | 4. わからない |
| —2 ルームの広さについて | 1. 広い | 2. ふつう | 3. 狭い | 4. わからない |
| —3 職員の対応について | 1. 良い | 2. ふつう | 3. 悪い | 4. わからない |
| —4 記念品や軽い飲食物について | 1. 良い | 2. ふつう | 3. 悪い | 4. わからない |

問11 献血について何か要望又は知りたいことがありますか。(複数回答可)

1. 献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい
2. 献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい
3. 献血で昼休み、夜間などの受付時間を延長してほしい
4. 職場や学校などで献血の機会を増やしてほしい
5. 献血された血液がどのように使われるのか知りたい
6. 献血したときの処遇品(記念品)をもっと良くしてほしい
7. 進学や就職時に献血の経験を考慮してほしい
8. 学校の授業で献血の重要性等について取り上げてほしい
9. その他()
10. 特にない

問12 初めて献血をしたのはいつですか。

1. 16～17歳 2. 18～19歳 3. 20～24歳 4. 25歳～29歳

問13 初めて献血した場所はどこですか。

1. 高校 2. 大学キャンパス又は専門学校・各種学校
3. 職場 4. 献血バス(1～3以外)
5. 献血ルーム(血液センター) 6. 覚えていない

問14 初めての献血の種類は何ですか。

1. 200mL献血 2. 400mL献血 3. 成分献血 4. 覚えていない

問15 初めての献血で400mL献血をすることをどう思いますか。

1. 特に不安は感じない 2. 不安 3. わからない

2. 不安を選んだ場合の理由

問16 過去1年間に何回献血しましたか。

(1) 200mL献血

1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回 7. 6回以上

(2) 400mL献血

1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回以上

(3) 成分献血

1. 0回 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回 7. 6回 8. 7回以上

問17 今までの献血回数は合計で何回ですか。

1. 1回 2. 2回 3. 3～5回 4. 6～10回 5. 11～20回
6. 21～30回 7. それ以上

問18 初めての献血のきっかけになったのは、次のうちどれですか。
きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 自分の血液が役に立ってほしいから
2. 輸血は愛に根ざしたものだから
3. 輸血用の血液が不足していると聞いたから
4. 自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
5. 将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力した
6. 過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
7. お菓子やジュースがもらえるから
8. ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
9. 図書券がもらえたから
10. なんとなく
11. 輸血を受けるときに役立てたいから
12. 家族や友人などに勧められたから
13. 高校に献血バス・出張献血が来たから
14. 大学キャンパスに献血バス・出張献血が来たから
15. 覚えていない

1 番目 2 番目 3 番目

問19 現在献血するきっかけになっているのは、次のうちどれですか。
きっかけの大きい順に3つまで、その番号をお選びください。

1. 自分の血液が役に立ってほしいから
2. 献血は愛に根ざしたものだから
3. 輸血用の血液が不足していると聞いたから
4. 自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから
5. 将来自分や家族などが輸血を受けることがあるかもしれないから協力したい
6. 過去に家族や友人などが輸血を受けたことがあるから
7. お菓子やジュースがもらえるから
8. 輸血を受けるときに役立てたいから
9. テレビやDVDを観ることができるから
10. ネールアートやマッサージなどのサービスが受けられるから
11. なんとなく

1 番目 2 番目 3 番目

問20 ご家族が献血している姿を見たことがありますか。

1. ある
2. ない
3. おぼえていない

問21 あなたのお友達に献血をしている人はいますか。

1. いる
2. いない
3. わからない

問22 高校での集団献血があれば、その経験がその後に献血する動機付けになると思いますか。

1. 非常に有効
2. どちらかと言えば有効
3. あまり関係ない
4. 全く関係ない

問23 献血に関する資料を読まれた後で次の質問にお答え下さい。

下の資料をご覧ください。

問23-1 献血の必要性への理解は今までと比べ深まりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問23-2 資料を読んで献血に協力する気持ちは高まりましたか。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問23-3 アンケートへの記載及び資料を読んで献血に行く回数を増やそうと思いましたが。

1. はい 2. どちらかというとはい 3. どちらかというといいえ 4. いいえ

問24 若い方の献血に協力する気持ちを高めるためには、どのようなことをすればよいと思いますか。

広報の方法やキャンペーン、イベント、献血場所などについて具体的なアイデアやイメージなどがあれば自由に記入してください。

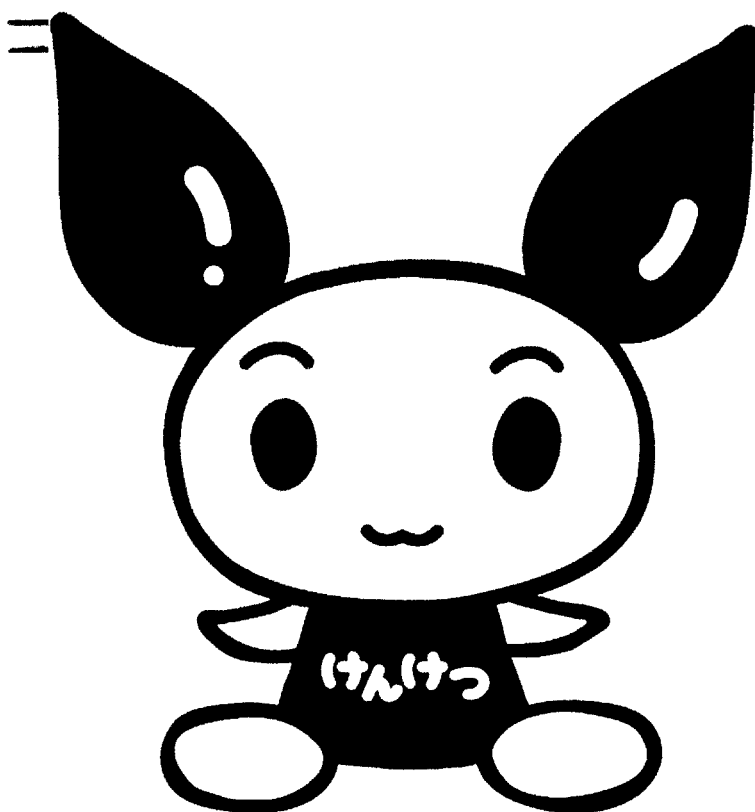
以上で献血に関するアンケートは終了です。御協力ありがとうございました。

わが国は、輸血などの血液製剤を献血により安全に安定して国内自給することを目指している世界でも数少ない国です。

今後とも、献血への御理解と御協力をお願いいたします。

なお、最後に、献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をどうぞよろしくお願ひします。

プロフィールはこちら → <http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/iyaku/kenketsugo/1i.html>



献血にご協力を 若い皆さんの熱い友情を

血液を必要とする人すべてが輸血を受けられるように。
献血したことのある方もない方も、あらためてご協力をお願いします。
血液を必要としている人はあなたのすぐそばにいるかもしれません。

① 献血はどこでできるの？

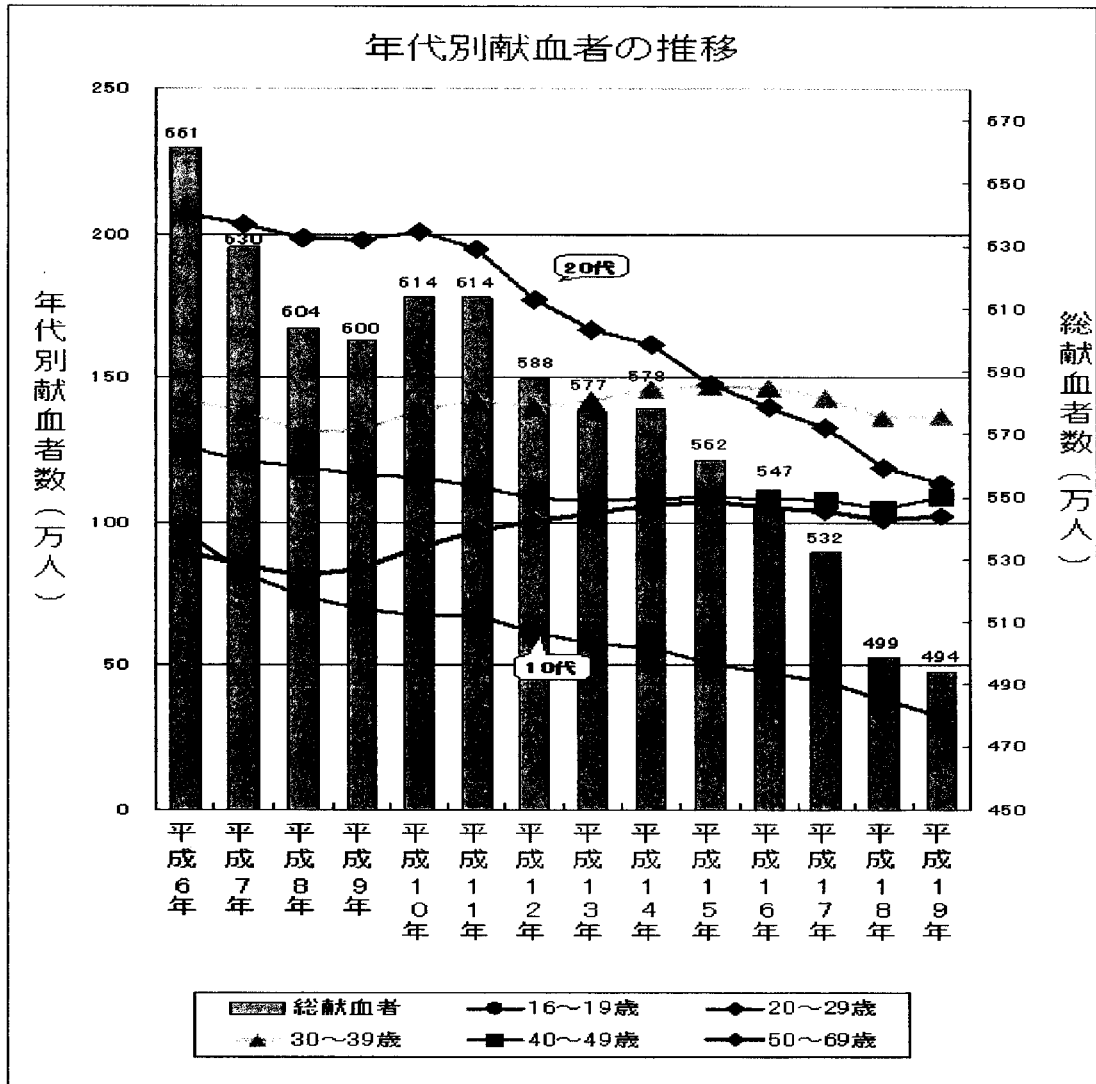
献血は、献血ルームや献血バスで行うことができます。
全国の血液センターや献血ルームは、日本赤十字社ホームページ(<http://www.jrc.or.jp>)に掲載しています。

② 献血はなぜ必要なの？

血液は様々な働きをしており、生命を維持するために不可欠のものです。そこで事故などで大量に血液が失われた人や、病気で正常な血液を造ることができなくなってしまった人には、血液を補充（輸血）することが必要になります。

しかし、医療技術の発達した現在でも、血液と全く同じ作用をもつものを人工的に作ることはできません。医療に必要な血液は私たち自身が提供するほかに確保する方法がありません。

献血は、病気やけがで血液を必要としている人のために、見返りを求めず血液を提供することです。健康な人のボランティアによって、多くの人の命が救われているのです。



現代の医療に欠くことのできない血液。
その血液の確保が徐々に難しくなっています。

原因の一つは若年献血者の減少。若年者数自体が少子化の影響で減少しているほか、若年人口に占める献血者の割合も減少していることから、若年者の献血離れが進んでいると言えます。

別の原因として、血液の安全対策の強化も挙げられます。血液にはウイルスなど病気の原因となるものが潜んでいる可能性があり、献血の前の問診でいくつかの条件に当てはまる方については、献血をご遠慮いただいています。感染症についての新たな事実が明らかになるにつれ、献血をご遠慮いただかなくてはならない人が増えてきているのです。

このままでは輸血を必要とする方々に血液が届けられないという危機的な状況となる可能性もあります。

献血はひとりひとりの思いやりによって支えられているシステム。皆さんのご協力をお願いします。